

予約購読者一覧にみる読者・支援者網
—ヘレン・マライア・ウィリアムズとシャーロット・スミスの詩集の事例研究—

小林英美*

(2014年11月28日受理)

Network of Subscribers to Female Poets
in the Late 18th Century England
—Helen Maria Williams and Charlotte Smith: A Case Study—

Hidemi KOBAYASHI*

(Received November 28, 2014)

Abstract

In the late 18th and the early 19th century, publishing by subscription was at its peak in Britain. The purpose of this paper is to clarify important patrons of Helen Maria Williams and Charlotte Smith. Analyzing lists of subscribers attached to the collections, some patrons appear in both of the lists; they are, for example, major politicians, celebrities in the high society and some middle class writers. The lists of subscribers imply the importance of literary network of patrons and avid readers in the Romantic period.

はじめに

18世紀末から19世紀初頭は、英国における予約購読形式出版の最盛期であった（Kobayashi, 155-156）。著者が作品の全権利を出版者に売り渡す「版權買い取り形式」が主流であった当時、予約金によってあらかじめ出版のための資金を調達できる予約購読形式は、出版者と著者双方のリスクが少ないことから、独自の存在意義を有していたのだ。特に詩の場合は、適切な作品鑑賞のためにはある程度の教養が必要とされることから、小説よりも読者が限定された。それゆえに、支援者獲得の有無が詩集の出版の実現とその成功の可否を左右したのであった。

*茨城大学教育学部英語教育教室（〒310-8512 水戸市文京 2-1-1；Laboratory of Department of English Language Teaching, College of Education, Ibaraki University, Mito 310-8512 Japan）.

18世紀前半までは、予約購読者あるいは資金提供者「パトロン（patron）」の主流は、富裕な上流階級すなわち貴族であった。しかしながら、産業革命の進行とともに、中産階級富裕層が勃興して社会的な発言力を増し、18世紀後半には、読者としても芸術の支援者としても重要な位置を占めるようになった。個人としては貴族ほどの力はないが、「読者層」という集団として、力を発揮したのである。その発現を顕著に認めることができるのが、予約購読出版形式であり、その読者層の実態は予約購読者一覧を分析することによって具体的に明らかにできる。

予約購読者一覧には、読者の氏名と注文冊数が必ず記載されるが、それに加えて職業や爵位、住所までも記載されるものもある。その一覧は、書籍の巻頭ないしは巻末にその一部として付されており、原則的には名字のABC順に記載されるが、爵位や予約受け付け順によって、順序が多少変更されているものもある。この予約購読者の記録を精査すれば、作品の読者・支援者の実態を明らかにできるだけでなく、その知られざる相互関係等について考察をくわえることも可能である。

本論は、ヘレン・マライア・ウィリアムズ（Helen Maria Williams; 1761 - 1827）が1786年に出版した『詩集』（Poems）とシャーロット・スミス（Charlotte Smith; 1749-1806）の『哀歌調ソネット集とその他の詩集』（*Elegiac Sonnets and Other Poems*）の予約購読者一覧を比較分析することによって、同時代の文壇を裏面から支えていた読者・支援者たちの実態や傾向等を明らかにし、各方面に拡張されていた読者網の一端に光を当てるものである。

これらの詩集は、たとえば同時代の女性作家エリザベス・カーター（Elizabeth Carter）が、1792年7月のモンタギュー令夫人（Lady Montagu）への書簡で言及しているように、同時代の文壇においても注目されていただけでなく（Guest, 130）、詩人ウィリアム・ワーズワス（William Wordsworth; 1770-1850）の「繊細な感受性（sensitivity）」に多大な影響を及ぼしたことを、ジョナサン・ワーズワス（Jonathan Wordsworth）も指摘している（*Poems 1786, Introduction*）。実際、詩人ワーズワスがまだ湖水地方のホークスヘッドの町のグラマー・スクールに在学していた14歳の時に、スミスの詩集を入手して読んでいたし、1787年には「苦悩の物語に泣くヘレン・マライア・ウィリアムズ女史を見て」（“On seeing Miss Helen Maria Williams weep at a tale of distress”）という小品を創作したことからもその影響の大きさは明らかで、この作品は『ヨーロッパ・マガジン』誌（*The European Magazine*）に掲載されている。つまり、二人の女性詩人の予約購読者を比較分析すれば、同時代の読者層の中でもワーズワスら次世代に継承・拡張されていく文学嗜好を有する読者層を抽出することにもなるのである。

そこで本論は、まずウィリアムズとスミスの二人の人生と詩集出版の経緯等を概観したのちに、予約購読者一覧を分析した結果から、彼女の支持者・予約購読者の広がりについての考察をおこない、具体化された同じ嗜好を有する読者の人脈を通して、18世紀末の文芸思潮形成の一過程を明らかにすることを試みるものである。

1. ウィリアムズの事例

ウィリアムズは1761年にロンドンで生まれたが、1歳のときにウエールズ人の父親は亡くなり、その遺産でスコットランド人の母親に育てられることになった。一時ロンドンを離れたが、1781年に再びロンドンに戻り、アンドルー・キップス（Andrew Kippis; 1725-1795）から文学的・政治

思想的な影響を受けることになる。1786年に出版者トマス・ケイデル（Thomas Cadell）によって予約購読出版した『詩集』収録の作品に、当時の彼女の平和主義やアフリカ人奴隷貿易制度反対の立場等の思想がはっきりと表れているが、それも彼の影響と言えよう。

フランス革命思想に共鳴した彼女は、1790年に約2カ月間、初めてフランスを旅行した。そして1791年に再びフランスに渡り、翌1792年には一時帰国して母親と妹たちを連れてフランスに再渡航した。彼女はこのころ女性の権利を訴えた思想家メアリ・ウルストンクラフト（Mary Wollstonecraft; 1759-1797）や思想家トマス・ペイン（Thomas Paine; 1737-1809）と知り合っている。また恐怖政治期の1793年には、家族とともに約1カ月投獄された。そのような体験を経たにもかかわらず、釈放後も滞在し続けて1818年にはフランスに帰化し、一時的にアムステルダムに住むこともあったが、1827年に亡くなるまでパリで文筆活動を続けた。

以上のようにウィリアムズが『詩集』を出版したのは創作活動の初期段階であり、経済的リスクが少ない予約購読出版形式を選んだことは、当時の彼女が置かれた状況からすれば、自然な選択であった。『詩集』に付された「序文」でも、教育の不十分さと若さゆえに、当時の読者の嗜好と自分の作品が合致しないのではないかという、「新人」らしい不安感が謙虚に表明されている。

そんな「新人」であるウィリアムズを後押しした人物が二人いた。一人は、前掲のアンドルー・キップスである。彼女はその経緯のごく一部を「序文」で簡単に明かしている。それによれば、彼女は個人的な楽しみで創作していた「エドウィンとエルトルーダの伝承物語」（“the Legendary Tale of Edwin and Eltruda”）をキップスに見せたところ、出版に値する作品であると評価してくれ、この詩集の出版計画に積極的に協力してくれることになったという。この「エドウィンとエルトルーダの伝承物語」は第1巻の後半（9編中7番目）に収録されている。なお、そのほかの作品については、上掲作品と異なり、出版することを意識して創作したと述べている。

さて、「序文」には、もう一人の協力者についての言及がある。その紳士は、面識がなかったにもかかわらず、予約購読者の収集に大いに尽力してくれたという。ウィリアムズは、その協力に心からの感謝を述べつつ、ここにその名を出すことを認められていない心苦しさを表明している。

この匿名の協力者の正体は、これまでの研究によってすでに明らかになっている。国会議員ジョージ・ハーディング（George Hardinge; 1743-1816）である。彼は首相ウィリアム・ピット（William Pitt; 1759-1806）の友人で、文才があることでも知られている。慈善的な活動にもたいへん積極的で、このウィリアムズの詩集の出版への協力だけでなく、彼女を、作家フランシス・バーニー（Frances Burney; 1752-1840）のように王室の仕事につけようと尽力し（Kennedy, 33）、後述のシャーロット・スミスにも、1790年からの約3年間ではあるが、協力したことがあったらしい（*The Collected Letters of Charlotte Smith*, 30. 以下、CS Letters と略する）。

前掲の協力者たちのおかげで多くの購読者を得て、詩集出版を成功させたウィリアムであるが、彼女の文学性が成功の一因であったことについても、ごく簡単に言及しておきたい。その文学性の起源のひとつは、彼女の母親の故郷スコットランドの詩人ロバート・バーンズ（Robert Burns; 1759-1796）にある。1787年に彼女はバーンズに次の手紙を書いている（Kennedy, 39）。

I was, therefore, qualified to taste the charm of your native poetry, and, as I feel the strongest attachment for Scotland, I share the triumph of your country in producing your laurels.

バーンズは彼女の詩に好意的な感想を述べており（Kennedy, 40）、バーンズの嗜好とも合致する作品が書けていたことがわかる。つまり、当時バーンズは一斉を風靡していたわけであるから、バーンズの作品を好む読者であれば、ウィリアムズ等の作品とも嗜好が合致する可能性が高いと考えられるのである。熱心なバーンズ信奉者であったワーズワスが彼女の作品を好んだことも、その証左の一つと言えらるだろう。一般的な意味での教育は不十分であったかもしれないが、バーンズという文学的な「教師」を得たことは、それを補って余りあるものだったのである。

以上のように、ウィリアムズ等の詩集の出版計画は、キップスとハーディングの積極的な協力によって順調にすすみ、書籍商によって購入者募集の広告が発表され、多くの購入者が予約した。その結果は『詩集』に作品とともに印刷された予約購読者一覧に明らかである。

最後にあと一つ、この詩集の読者・支持者層を知る手掛かりについて言及しておきたい。それは巻頭の挿絵である。ウィリアムズ等の歴史観あるいは政治観が垣間見られ、後に彼女が巻き込まれていくフランス革命の人生を暗示するという指摘があるが（Kennedy, 34）、ここで注目したいのは、この絵の作者である。この絵を描いたのは、女性画家マリア・コズウェイ（Maria Cosway; 1760-1838）である。彼女は夫で画家のリチャード（Richard）とともに、このウィリアムズ等の詩集の予約購読者にもなっているが、当時の社交界にける有名人の一人であった。彼女はデヴォンシャー公爵夫人ジョージアナ・キャヴェンディッシュ（Georgiana Cavendish, Duchess of Devonshire; 1757-1806）の肖像を描いていることでも知られている。あとで繰り返して述べることになるが、この有名人である夫婦を中心にした、英国美術界とパリのサークルも、詩集の購読者収集に有力であったと考えられるのである。なおコズウェイのパリでの人脈は、後のアメリカ合衆国大統領トマス・ジェファソン（Thomas Jefferson; 1743-1826）にもつながる。当時彼は合衆国の大使としてパリに滞在しており、コズウェイとはプラトニックな恋愛関係にあったことが知られているからである。

2. スミスの事例

次にシャーロット・スミスの事例に移る。彼女はロンドンの裕福な家庭に生まれたが、父親の経済的な問題が原因で早くに結婚することになった。しかし夫になったベンジャミン・スミス（Benjamin Smith）も経済的な問題を抱えており、その返済のために子供たちとともに家族で収監されることになった。『哀歌調ソネット集とその他の詩集』はその獄舎で1784年に創作され、ジェイムズ・ドッズリー（James Dodsley）によって印刷・出版されたが、いわば自費出版のようなものであった。幸いにも好評を博し、その売上金のおかげで釈放された。

その後、1787年に夫と別れたスミスは、養育費を稼ぐために精力的に小説や詩の創作やフランスの作品の翻訳等の活動をし、文壇での評価も高まっていった。『哀歌調ソネット集とその他の詩集』も版を重ねたが、ここで取り上げる予約購読出版された詩集は、1789年の第5版と1797年の第2巻の二種類になる。

なおスミスは1791年の後半に、一時的ではあるがパリに滞在している（Fletche, 142）。そのときに、通称ブリティッシュ・クラブ（British Club）で、ウィリアムズ等のフランス革命支持の英国人たちと知己を得ている（Fletcher, 142）。このときの人脈が、予約購読出版を含めた彼女のその後の作品の出版に、良い影響を及ぼしたものと考えられるが、彼女の最初の予約購読出版の段階で

は、まだ直接的な関わりはなかった。

さてスミスの詩集の予約購読出版だが、前述のウィリアムズの詩集の場合とは状況が大きく異なる。なぜならば、通常の出版によって、すでに4版を重ねるほどに『哀歌調ソネット集とその他の詩集』は成功しており、増補版といえる第5版において初めて予約購読形式で出版をしているからである。この件についてスミスが出版者トマス・ケイデルにあてた1787年6月3日の書簡が残っている。前掲ウィリアムズの『詩集』と同じロンドンの出版者である。

Many of my friends and several persons of high fashion have express'd a wish that the Edition of Sonnets which I have some time meditated may be publish'd with plates by subscription. And indeed I find the expence[sic] of good plates (and with no other should I be satisfied) is so great that I cannot otherwise engage in such a work without hazarding the profit of the Edition which at present I am so circumstanced as to be unable to do-- With such illustrious Patronage as has (unsolicited) been offer'd me, it would perhaps be a failure of my duty to my family and yielding to the suggestions and the good opinion of the public.

...

I purpose to add other Sonnets and two or three longer poems, the whole forming a pocket volume, printed on the fine paper with four or six plates at half a Guinea.

(CS Letters, 11-12)

この第5版は、挿絵を5枚加えたいいわゆる「豪華版」で、書簡からもわかるように、とりわけ裕福な読者の要望にこたえて作られたものであった。『哀歌調ソネット集とその他の詩集』は、すでに四回も版を重ねているうえ、高額なもの（半ギニー）になるので、経済的なリスクを回避するために予約購読出版形式を選んだと考えられる。

スミスは、1797年に、『哀歌調ソネット集とその他の詩集』第2巻も予約購読形式で出版している。計画は1794年から始まっていたことが次のジョゼフ・クーパー・ウォーカー（Joseph Cooper Walker）宛ての1794年3月25日の書簡からわかり、十分な数の予約者を集めるのに、相当な時間がかかったことがわかる。

In the course of twelve month will be published a second Volume of Poems by Charlotte Smith. With plates, and a portrait of the Author. Subscriptions at half a Guinea will be receiv'd by Mr Cadell. Only half the money to be paid on Subscribing to defray the expense of the Engravings, the drawings for which will be made under the direction of the Author--The Portrait from a picture painted by Romney.

(CS Letters, 104)

この詩集も第5版と同じように挿絵つきで半ギニーで、比較的高価なものであったことが時間を要した一因と考えられる。

なお、彼女の肖像画を描いた画家ジョージ・ロムニー（George Romney; 1734-1802）との交友は、

ウィリウム・ヘイリー（William Hayley; 1745-1820）のサークルで生じたもので、そこでスミスは詩人ウィリアム・クーパー（William Cowper; 1731-1800）とも知り合っている（Fletcher, 162）。スミスは初版の巻頭でヘイリーへの献辞を書いているだけでなく、その序文の以下の箇所でも彼の協力に言及していることから、出版おいていかに彼が重要な立場にあったかがわかる。

The specimens Mr Hayley has given, though they form a strong exception, prove no more, than that the difficulties of the attempt vanish before uncommon powers. . . I can hope for readers only among the few, who, to sensibility of heart, join simplicity of taste.（下線は筆者）

また読者に向けて、「心の繊細な感受性（sensibility of heart）」と「嗜好の簡素さ（simplicity of taste）」を望んでいるが、ここに、のちのワーズワスとコウルリッジの共同詩集『リリカル・バラッズ』（*Lyrical Ballads*）の有名な趣意書（Advertisement）や序文（Preface）での主張に通じるものがあり、それらでの詩論の源泉の一端を見ることができるともかもしれない。換言すれば、このような考え方に共鳴した読者が、ワーズワスらの支持者となったのである。

3. 共通の購読者の抽出と読者層の傾向

最後に、ウィリアムズとスミスの予約購読者一覧を比較して、確証性が高い共通する予約購読者・支援者を抽出し、その周辺人物も明らかにすることによって、二人を支持した読者・支援者のネットワークを具体的に提示したい。

3.1 ウィリアム・ピット（William Pitt）支持、トーリー（Tory）派

- ① ARDEN, Richard Pepper, The Hon., ESQ.
法務長官、チェスターの裁判長（1744-1804）、ピットの友人。
- ② BEAUFOY, Henry Hanbury, ESQ. (1750-1795)
政治家。父親は醸造業者。クエーカー教徒、ホクストン非国教徒アカデミー（Dissenting academy at Hoxton, 1765-7年）で学び、アンドルー・キップスの指導を受けている。その後、ウォリントン・アカデミー（Warrington Academy, 1767-70年）、エディンバラ大学で学ぶ（1772-73年）。
- ③ DOUGLAS, Archibald, ESQ. (1748-1827)
政治家。初代ダグラス男爵。作家ジェイムズ・ボズウェル（James Boswell）と関係がある。
- ④ JEKYLL, Joseph, Barrister at Law, ESQ. (1754-1837)
法律家、政治家。王立協会会員、古美術愛好会会員。オックスフォード大学クライストチャーチ学寮卒業後、1774年（MA1777年）、フランスのプロアにフランス語研修のために1年滞在し、フランスの社交界との関係を構築した。1776年に帰国。ジェレミー・ベンサムらと知己がある。ランズダウン（Lansdowne）のサークルにも属する。
- ⑤ SARGENT, John, ESQ. (1714-1791)
政治家、商人。イングランド銀行幹部。アメリカとの関係が強く、かのベンジャミン・フランクリン（Benjamin Franklin）の親友。

⑥ SARGENT, jr, John, ESQ. (1750-1831)

政治家, 織物商。詩人トマス・ヘイリー (Thomas Hayley) の友人。父と同じイングランド銀行幹部にもなる。1785年に自ら詩集も出版している。

3.2 チャールズ・フォックス (Charles Fox) 支持, ウィッグ (Whig) 派

① DOUGLAS, Sylvester, Barrister at Law, ESQ. (1743-1823)

政治家, 日記作家。ウィッグ・クラブとブルックス・クラブに属する。

② GREY, Charles, SIR (1729-1807)

初代グレイ伯爵。陸軍将校。

③ GREY, Charles, SIR (1764-1845)

第2代グレイ伯爵。政治家, 首相。サー・ウォルター・スコット, マライア・エッジワース (Maria Edgeworth), バイロン, スペンサーの作品を好んだ。

3.3 ブルー・ストッキングの会関連

① BOSCAWEN, The Hon. MRS (1719-1805)

作家。ブルー・ストッキングの会の主催者の一人。会合には以下の人々が集った。ディラニー夫人 (Mrs. Delany), 作家エリザベス・カーター, エリザベス・モンタギュー (Elizabeth Montagu), ハナ・モア (Hannah More), ジョンソン博士, ジェイムズ・ボズウエル, サー・ジョシュア・レノルズ, フランシス・レノルズ (Dr Johnson, James Boswell, Sir Joshua and Frances Reynolds)。

② GOWER, Leveson, MR, Hon. (1740-92)

政治家, 海軍将校。Mrs Boscawen の長女 Frances と結婚。

3.4. 医者

① BROMFIELD, William, ESQ. (bap.1713, d.1792)

外科医。父親も医者で, 息子二人は内科医と外科医。王室つきの医師にもなっている。外科医ウィリアム・ハンター (William Hunter) と関係がある。

② GLYNN, Robert, ESQ, M.D., Fellow of the Royal College of Physicians

内科医で, 首相ウィリアム・ピットを診断したこともある。詩人トマス・チャタトン (Thomas Chatterton) のローリー詩集 (*Rowley Poems*) 贋作騒動に関わり, 作品が本物だと信じていた。

③ HUNTER, John, MRS (1742-1821) : Anne Hunter

外科医ジョン・ハンターの妻で詩人。彼女の詩を歌曲にした作曲家ハイドンとも交流がある。

3.5. 聖職者関連

① BOWDLER, John, ESQ. (1746-1823)

イングランド教会平信徒, 宗教作家。

② KNIGHT, Samuel, ESQ. (1759-1827)

イングランド教会牧師, ケンブリッジ大学出身。著作に *Forms of Prayer* (1791) がある。

- ③ LAW, George, The Rev. MR., Preb. of Carlisle (1703-1787)

息子はバースとウエルズの主教。

- ④ The Rt. Rev. the Bishop of St.Asaph.

セント・アサフ主教。

3.6. 文学・出版

- ① FRERE, John, ESQ, F.R.S and F.A.S. (1740-1807)

地主で古美術収集家。王立協会会員，古美術愛好家。海軍訓練生への慈善協会の副会長（Vice president of the Marine Society : a charity to apprentice poor boys to the Royal Navy）

- ② FRERE, John Hookham, ESQ. (1769-1846) Diplomatist and author.

ジョン・フレアの長男。ジョージ・カニング(George Cuning)の親友で、『アンティ・ジャコバン』誌(The Anti-Jacobin)を一緒に1797年に創刊する。また『クォータリ・レビュー』誌(The Quarterly Review)の創刊時の一人でもある。

- ③ HAYLEY, William, ESQ. (1745-1820)

詩人で伝記作家。交友にジョージ・ロムニー(George Romney), 詩人ウィリアム・クーパー, そして詩人ウィリアム・ブレイク(William Blake)がいる。

- ④ NEWBERRY, Francis, ESQ. (1743-1818)

出版者, 学者, 詩人, 音楽愛好家, オックスフォード大学を卒業するが家業の書籍商を継ぐ。日曜学校運動で有名な印刷業者ロバート・レイクス(Robert Raikes)の妹と結婚する。

- ⑤ RICHARDS, David, REV. (1751 - 1827)

学校長, 詩人。

- ⑦ WALPOLE, Horace Hon (1717-1797) .

作家, 政治家, 芸術家の支援者。

3.7. 美術, 演劇

- ① PELHAM, Henry, ESQ. (1749-1806)

関税庁検査官, 芸術家(画家, 彫刻家)。アメリカ, ボストン. 生まれたが, 1776年にロンドンへ移住した。王立アカデミー会員となる。

- ② ROMNEY, George, ESQ. (1734-1802)

画家。交友関係:ウィリアム・ヘイリー, ウィリアム・クーパー, エマ・ハート(Emma Hart), ジョン・フラクスマン(John Flaxman), ヘンリー・フューズリ(Henry Fusuli), ウィリアム・ブレイク等。フランス革命支持者。1790年晩夏にパリ滞在。

※ マリア・コズウェイ: 歴史画家, 教育家。(ウィリアムズの詩集の方だけ予約)

- ③ SIDDONS, Sarah MRS (1755-1831)

女優。交友関係:ソフィア・ウエストン(Sophia Weston), ヘスター・スレイル(Mrs Hester Thrale:ピオッツィ夫人(Mrs Piozzi), フランシス・バーニー, デヴォンシャー公爵夫人ジョージアナ・キャヴェンディッシュ, ジョンソン博士, エドモンド・パーク。1780年代にはロンドン社交界の中心にあった。

3.8. 貴族

MONTAGUE, H.G. the Duke of, Frederic, DUKE, Master of the Horse to the King (1733-1800) モンタギュー公爵。政治家。母親はモンタギュー令夫人でロンドン社交界の要人。文学趣味があり、詩人トマス・グレイ (Thomas Gray) やウィリアム・メイスン (William Mason) と交友がある。エドモンド・バークを支持していた。

3.9. 予約購読に含まれない重要な支援者

① John Moor (1729-1802)

医者・作家。ウィッグ (フォックス) 支持派。

同時代を代表する外科医ウィリアム・ハンター (William Hunter) の解剖講義にも出席していた。パリに留学経験があり、交友関係も広く多彩であった。例えば、詩人ロバート・バーンズ、その支援者であるフランシス・ダンロップ (Francis Dunlop) 夫人、作家トバイアス・スモレット、ハミルトン公爵 (Duke of Hamilton)、エドモンド・バーク、デヴォンシャー公爵夫妻、サー・ジョシュア・レノルズ、ピオッツィ夫人のサークル、詩人サミュエル・ロジャーズ、H.M. ウィリアムズなどと交友関係があった。

② George Hardinge (1743-1816)

判事・作家。ピット支持派。作家ホレス・ウォルポールの友人。人望があった。王立協会会員 (Fellow of Royal Society)、博愛主義協会副会長 (Vice president of the Philanthropic Society)。著作に *Rowley and Chatterton in the Shades* (1782) があり、文学への造詣も深い。

③ Andrew Kippes (1725-1795)

長老教会派聖職者、作家。『ジェントルマンズ・マガジン』誌 (*The Gentleman's Magazine*) や『マンスリー・マガジン』誌 (*The Monthly Review*) に寄稿。当時は非国教徒だけでなく、ロンドンの知識層の中でも有名な人物であった。古美術愛好会会員で、王立協会会員。彼は非国教徒の学校で教鞭をとっており、その教え子は、政治思想家ウィリアム・ゴドウィン、サミュエル・ロジャーズなど多彩で、さまざまな分野で活躍していた。

結論

二つの予約購読者一覧の比較分析から、特に重要な文学支援者・予約購読者を抽出することができた。その具体的な結果は列挙したとおりだが、これはまた、同じ嗜好をもった読者のネットワークを提示することになり、特に美術、音楽関連という別のジャンルの芸術家との関連性を見出すこともできたことは今後の研究素材の一つになると考えられる。

文学思潮的には、若きワーズワスは、ウィリアムズとスミスの作品の読者であり、これらの予約購読者一覧も目にしていたし、この予約購読者と同じ嗜好を共有していたので、ワーズワスが想定した『リリカル・バラッズ』の読者の萌芽は、このリストの購読者の傾向にも見出すことができるだろう。この予約購読者一覧の比較分析は、支援者間のその後の読者網の拡張を予見させると同時に、文学思潮の形成過程の一端を垣間見せるものとなった。

※ 本研究の遂行は，日本学術振興会科学研究費 基盤研究（C）「英国 18 - 19 世紀予約購読出版と文芸サークルが女性詩人支援に果たした役割」による。

※ 本論文は，イギリス・ロマン派学会第 36 回全国大会（2010 年 10 月，於大阪大学）での研究発表「18 世紀末女性詩人とその支援者—C.Smith と H.M.Williams の事例を並列して」の内容を加筆修正したものである。

引用文献

Burnell, Carol. *Divided Affections*. Lausanne: Column House, 2007.

Fletcher, Loraine. *Charlotte Smith A Critical Biography*. London: Macmillan Press Ltd., 1998.

Guest, Harriet. *Small Change: Women, Learning, Patriotism 1750-1810*. Univ of Chicago Pr., 2000.

Hayley, William. *Memoirs of the Life and Writings of William Hayley, ESQ. The Friend and Biographer of Cowper, Written by Himself*. 2vols. Ed. John Johnson. London: Henry Colburn and Co., 1823.

Kennedy, Deborah. *Helen Maria Williams and the Age of Revolution*. Lewisburg: Bucknell UP, 2002.

Kobayashi, Hidemi. “Subscribers in the Age of Romanticism”, 『早稲田大学大学院教育学研究科研究紀要別冊』（早稲田大学大学院教育学研究科）第 10 号 - 1, 155-161 頁 .

Smith, Charlotte. *The Poems of Charlotte Smith*. Ed. Stuart Curran. Oxford: OUP, 1993.

Smith, Charlotte. *The Collected Letters of Charlotte Smith*. Ed. Judith Phillips Stanton. Bloomington & Indianapolis: Indiana UP, 2003.

Williams, Helen Maria. *Poems 1786*. Ed. Jonathan Wordsworth. Oxford: Woodstock Books, 1994.